

教会に生きる喜び

牧師と信徒のための教会論入門

朝岡勝



●四六判・224頁・本体1,800円
神を愛する信仰者の共同体でありながら、時に苦悩と躓きをもたらす地上の教会……。その本質と使命を聖霊論的な思索から問い直す「教会再発見」への旅。

キリスト教哲学序論

超越論的理性批判

春名純人



●A5判・504頁・本体6,500円
救贖の福音はキリスト者に召命を与え、創造の目的である神の国の建設に派遣する。本書は聖書に基づく人間と被造世界についての有神論的思惟を追求する哲学を提示する。

好評発売中!

自由への指針

「今」を生きるキリスト者の倫理と十戒

大嶋重徳

●四六判・210頁・本体1,600円
キリスト者学生会の総主事として全国を飛び回る著者が、現代の若者の悩みや痛みに寄り添いながら語った十戒の講解。私たちの弱さや痛みをも包み込む〈希望の倫理学〉!

好評発売中!

手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック



世界が絶賛した手塚治虫の遺作アニメ「天地創造からイエスの誕生までを描いた26話」●本体28,500円(室内見本)

12月の新刊 (価格表示は税抜)

グノーシス研究の第一級資料!



キリスト教教父著作集19
ヒッポリュトス 大貫隆記 全異端反駁
●A5判函入・582頁・本体9,200円
本邦初訳となるローマのヒッポリュトス(一七〇年頃―二三五年)の名著。グノーシス諸派の教説を厳しく論難する反駁書!

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一九年一月一日発行(毎月一回一日発行)
本のひろば 第七三三号 二〇一九年一月号

本のひろば 2019-1

発行所 〒150-8521 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話 〇三-三三六〇一六五二〇 振替 〇一七〇一五一一六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 榎平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 〇三-三三六〇一五六〇

定価七八円(税抜七二円) (〒62円) 一年分一三〇〇円(送料共)



【月刊】キリスト教書評誌

ISSN 0286-7001
一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2019年1月1日発行(毎月一回発行) 第733号

● 出会い・本・人

「横軸」を通して「縦軸」を知る 齋藤 篤

● 特別記事

『聖書ものがたり ノアの箱舟』 作者金斗鉸さんに聞く

● 本・批評と紹介

兼子盾夫 著

遠藤周作による象徴と隠喩と否定の道 金 承哲

ジョン・ディア 著 / 志村 真訳 剣を収めよ 金井 創

ヨアヒム・エレミアス 著 / 南條俊二 訳

イエスのたとえ話の再発見 廣石 望

斎藤宗次郎 著 / 児玉実英、岩野祐介 編 / 田村真生子 監修

復刻 聴講五年 鈴木範久

鶴ヶ岡裕一 著

社会の苦痛と共に歩む教会をめざして 濱野道雄

赤江弘之 著

聖書信仰に基づく教会形成 朝岡 勝

湊 晶子 著 初代教会と現代 永田竹司

小笠原 優 著

キリスト教信仰のエッセンスを学ぶ 阿部仲麻呂

大養光博 著 「筑豊」に出会い、イエスと出会う 小柳伸顕

スタンリー・ハワーワス、ジャン・パニエ 著 / 五十嵐成見 他 訳

暴力の世界で柔和に生きる 太田 勝

近刊情報

書店案内

shop 教文館

教文館 〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549(出版部) 本のご注文は(e-shop 教文館)へ! http://shop-kyobunkwan.com/

シリーズ和解の神学 すべてのものとの 和解

E. カトンゴレ/C. ライス
佐藤容子/平野克己 訳



第2回
記本

◆四六判 並製・210頁・2,160円
2018年12月17日刊行予定

ウガンダ育ちのカトリック司祭カトンゴレと、和解の働きに取り組むプロテスタント信徒ライスが、和解の新たなヴィジョンを示す。

教会はイザヤ書を いかに解釈してきたか

七十人訳から現代まで B.S.チャイルズ
田中光/宮崎薫/矢田洋子 訳



◆A5判 上製・506頁・7,344円
2018年12月17日刊行予定

イザヤ書を中心に、二千年にわたる旧約解釈の歴史をたどりつつ、個々の解釈者を、あまり光を当てられてこなかった人物も含めて公平に論評する。

20世紀最大の神学者カール・バルトの召天から2018年12月で50年——
閉塞感におおわれた今こそ、未来の希望を指し示したバルトの神学と言葉に触れよう

カール・バルト 召天50年記念セット



ご注文
受付中!

※1、9、12巻は函なし

現在品切れしている「カール・バルト説教選集」第1巻・第9巻・第12巻をソフトカバーでオンデマンド復刊！
単巻でも購入できるようになります！
2018年12月10日発売予定、ご注文受付中！

2018年12月10日発売予定

雨宮栄一/大崎節郎/小川圭治 監修

セット
特別価格 **100,000円**

◆各巻 A5判 上製函入り 212~434頁 **30** 限定

バルト神学の母胎となった、神のことばをとりつぎ福音の喜びを力強く語る説教。刊行当時翻訳可能なすべての説教を収録。

セット特典

- 便利な「説教聖書箇所一覧表」付き
- 1巻・9巻・12巻は記念セット限定でハードカバーにて復刊(函は付属しません)

詩篇の思想と信仰 VI

月本昭男 (古代オリエント博物館館長・上智大学教授) 第126篇から第150篇まで
厳密な私訳、詳細な語釈、透徹した分析。古代オリエント学に通暁した著者による詩篇の全注解、完結間近。Vは2019年刊行予定。
◆四六判・本体3400円

12月20日

アメリカ現代神学の航海図

栗林輝夫/大宮有博・西原廉太編 栗林輝夫セレクション2
ダイナミックな活力に溢れるアメリカ現代神学を、ウーマニスト神学からポストモダン神学まで広く鋭利な視点から分析する。著者の遺稿から17編を精選した2巻本セレクション完結。
◆A5判・本体4900円

わたしの信仰 キリスト者として行動する

アンゲラ・メルケル/松永美穂訳 大反響
原発離脱や難民受入などの決断の根底には何があるのか？ 教会関係の集会などで語った講演16編を収録。彼女の信仰観・人生観を余すことなく伝える注目の書。
◆四六判・本体2300円

カール・バルトの愛と神学

DVD+ブックレット 没後50年記念
E・ブッシュユラの証言を交えてその生涯をたどる。助手キルシユバウムとの愛も正面から論じる。
12月20日 ◆本体3700円



2019年版
渡辺禎雄版画カレンダー
「よき羊飼ひ」発売中
◆本体500円

2018年いち押しのクリスマス絵本!
ヴァン・ダイク作/中井俊巳文/おむらまりこ絵

もうひとりのはかせ

クリスマス劇でおなじみの名作
「アルタバン物語」が待望の絵本に!

自分の全財産を売って贈り物を用意したアルタバン。でも他の博士たちに遅れてしまい、救い主を尋ね求めて、ひとりて33年間も放浪の旅を……。◆本体1400円





出会い・本・人 「横軸」を通して「縦軸」を知る ——齋藤 篤

わたしは、いわゆる「各個教会史」と呼ばれるものが大好きで、それを読み始めると、時を忘れてしまいます。節目ごとに贈呈されるこれらの本が、教会の書棚の一部分を容赦なく占拠してしまうことはよくあるのですが、わたしにとっては、それはまさに「宝庫」に他なりません。教会がどのような教派的・人的背景があり、どのような伝道牧会を、代々の牧師と信徒がともに営み、そこにどのような神の関わりと祝福があり、キリストを主とあがめたドラマが織りなされたか。各個教会史ほど面白く、また実践に役立つ歴史物語はありません。

また、それに付随して、わたしは「年鑑」と呼ばれるものも大好きです。日本基督教団に属する牧師として、身近なところにある一冊は『日本基督教団年鑑』であり、ほかに『キリスト教年鑑』（キリスト新聞社）や、『クリスチャン情報ブック』（いのちのことば社）は、わたしにとつての必携書です。これらの年鑑に収められた人的・数的情報を、各個教会史とあわせて読んだとき、そこには、主イエスの十字架の「縦軸」にある、神とわたしたちとの関係というものが、十字架の「横軸」にある信仰共同体の壮大なつながりと交わりを通して気づかされ、与えられているのだという、深い確信に導かれます。わたしたちは、聖書を通してキリストのからだである教会がなんであるか

を知りますが、キリストのからだとさせられたわたしたち自身の情報は、これらの年鑑や各個教会史を通して知ることができるので、やはり宝としか言いようがありません。

そんな私にとつて、思い出している書棚から取って何度も読み返している、愛読書なる一冊があります。二〇〇四年に出版された『教界人物地図』（伊藤義清著・教友社）です。牧師の子弟であり、本人も牧師として歩んだ著者が、「牧師の子供たち」と「アジアとかかわった人々」数十名について描いた一冊です。

この本のすごいところは、登場する本人の歴史に「どのような人が関わったか」、つまりその人を取り巻く豊かな人物相関図というものに、かなりの分量が割かれていることです。まさに十字架の「横軸」の記録であり、それが人物地図と題されたゆえんです。

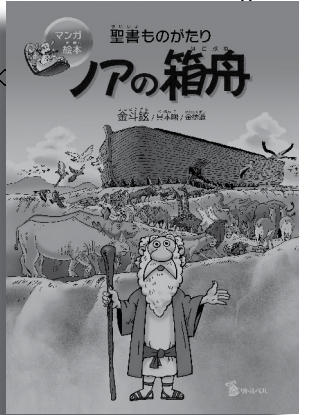
日本における宣教が停滞していると叫ばれ続けている中で、わたしたちがこの「横軸」を深く知り、そこにある交わりのダイナミックさに気づかされることは、あらゆる壁を打ち破ってくださる主の御心という「縦軸」へ、わたしたちが召され、参加するモチベーションとなり、神が与えてくださった具体的なナビゲーションでもあると信じてやまないのです。

（さいとう・あつし）日本基督教団深沢教会牧師



せいしよ
マンガ えほん 聖書ものがたり
はこぶね
ノアの箱舟

きむとうげん 金斗鉉 / ぐぼんそ 具本曙 / きむとくぞう 金徳造 *作



三人のイラストレーターが描きだす、臨場感あふれる細密で鮮やかな聖書の世界。どんなふうにかこの絵本が生まれたのか、気になりますよね？ 長年「信徒の友」（日本キリスト教団出版局）表紙のため数々の教会の絵を手がけ、連載「金さんのスケッチ散歩」も好評。キリスト教本屋大賞を連続受賞した『聖書人物おもしろ図鑑』シリーズでもおなじみの金斗鉉さんにお聞きしました！

金斗鉉氏 プロフィール

グラフィックデザイナーを経て、フリーランスイラストレーター。著書に『絵本イラストレーション入門』（新星出版社）、『聖書人物おもしろ図鑑 旧約編』&『新約編』、絵本『ヌリマースペンキ店』（以上、日本キリスト教団出版局）、『ふるさと60年』（福音館書店）など多数。各地で「絵が描けない人のためのワークショップ」「幼稚園の先生とお母さんのための絵の教室」を実施、2008年から毎年ネパールの子どもたちへの絵の指導を行なう。日本基督教団浦安教会員。



三人の共同作業で
生まれた作品

——具本曙さんと金徳造さんは、斗鉉さんのお弟子さんということ、三人の本を作られました。徳造さんは斗鉉さんの息子さんで、以前「このころの友」（日本キリスト教団出版局）でもマンガを執筆されるなど活躍中です。具さんはどんな方でしょうか？

彼は京都精華大学マンガ学部を卒業して、今年うちのアトリエに来たのです。とても信仰がアツいんです。

——三人での本作りは、どんなふうに進められたのでしょうか？

最初に、二人それぞれに「ノアの箱舟」のマンガを描いてもらったんです。それを見ながら、

この場面はこれを使おう、というように良いところを選んでいって、私がペンで描いたものに、二人が色付けするという形でした。

——一冊の絵本に、実質三冊分のコストをかけて作られていたんですね。斗鉉さんの構想にしたがって、若い息子さんがアシスタントとして描く、というような形ではなかったんですね。

そうすると、なかなかうまくいかないことがあるのです。人それぞれ、考えもあるし、個性もあります。そのほかにも、息子には表情をつけたり、海をつくってもらったり、具くんには箱舟づくりを、全体の設計から細部までやってもらいました。

——どんなことで一番苦労されましたか？

なぜ、聖書ものがたりを
マンガ絵本に？

——「マンガ絵本」というスタイルで聖書ものがたりを描こうと思ったのは、きっかけがあったのですか？

ずっと教会学校にたずさわってきたので、いつかはＣＳで使える聖書物語を描きたい、という願いがあったのです。妻のドイツからのお土産のマンガ本『マルチン・ルター』を見て、そんな長年の思いに火がつかしました。

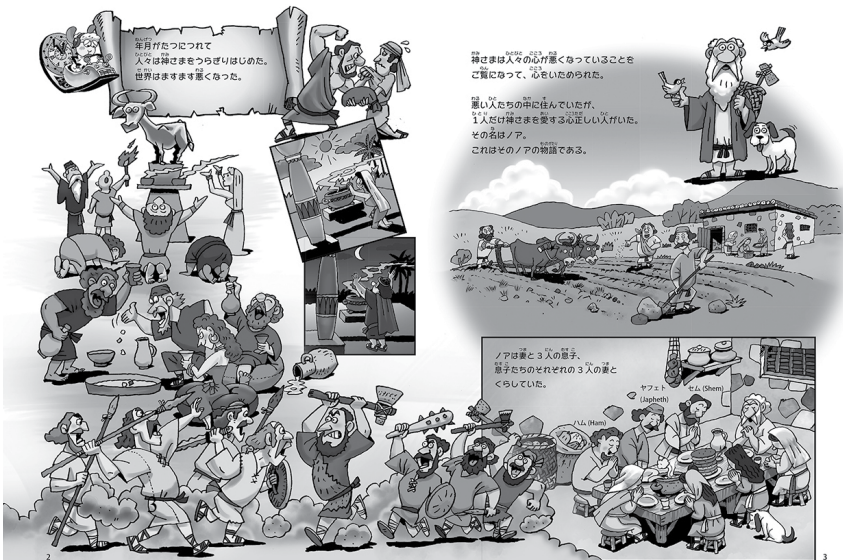
——本づくりにあたって一番気を付けたのは、どんなことでしょうか？

聖書に忠実でありながら、面白本にしたいと思ったので、カタクならないように気を付けました。

時間ですね。良いものを作りたいと思うと、時間がかかります。



『ノアの箱舟』より



新シリーズ! マンガ絵本 **聖書ものがたり**

ノアの箱舟

きむとうげん **金斗鉉** / くほんそ **具本曙** / きむとくぞう **金徳造** 作 A4判 上製・26頁 本体1,200円+税

ノアは神さまに命じられて、大きな箱舟をつくり、家族とたくさんの動物をのせます。やがて雨が降りはじめ、大洪水となって……。マンガ感覚で楽しめるノアのおはなし。

人気イラストレーター・金斗鉉が
新たなスタイルで描きおろす
壮大な聖書のストーリー!

大好評発売中

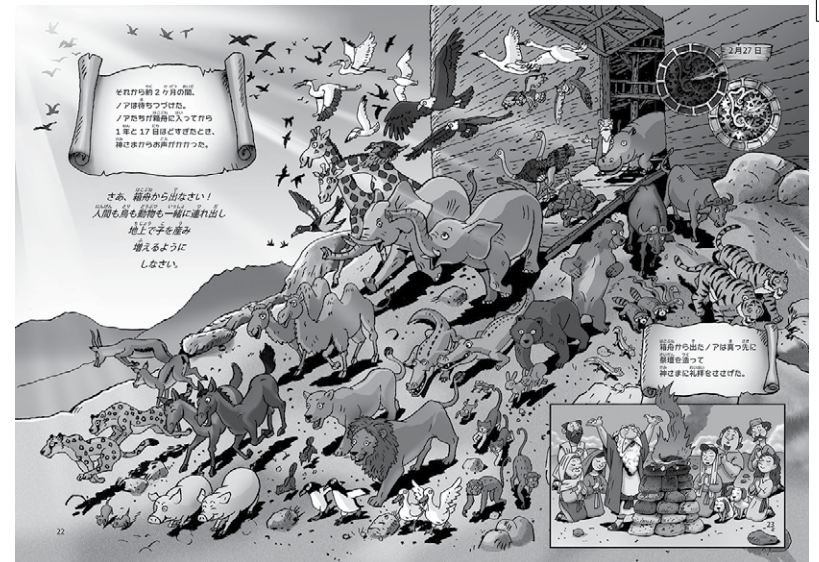
シリーズ続刊「クリスマス(仮)」2019年発売予定

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
 ■ホームページ <http://bp-uccj.jp> ■Eメール eigyuu@bp.uccj.or.jp

『ノアの箱舟』より

——シリーズ続編もあるという噂は、
本当ですか？

マンガ絵本 聖書ものがたり
シリーズ化を見据えて



はい。イースター物語、クリスマス(イエスの生誕)の構
想を練っています。

楽しみに待っています!

今回、このような形で作りま
したが、将来的には私の手を
離れて、若い世代の人たちで作っ
ていってほしいと思っています。

次代の信仰者が届ける聖書ものが
たりとして、このマンガ絵本の企画が
あるんですね! すばらしいアイディ
アです。
その第一歩となるこの『ノアの箱舟』、
一番お気に入りの場面を教えてください。

具くんのアイデアで生まれた、
箱舟の中のトイレ!

続編制作も頑張ります!
ご期待ください!



リトルベル マンガ絵本 聖書ものがたり
ノアの箱舟
金斗鉉/具本曙/金徳造*作
A4判上製・26頁・本体1,200円+税
日本キリスト教団出版局

——ええっ? トイレがあるんです
か?! でもたしかに、なかったら大変
なことになっていましたね。あとでじっ
くり眺めて確かめておきます。
ありがとうございます! 具さん
と徳造さんにも、よろしくお伝えくだ
さい。

「対比文学的方法」から見る遠藤周作研究の新しい地平
兼子盾夫著



金 承哲

対比文学の方法

兼子盾夫氏は、専門である哲学と比較思想の視座から遠藤周作の文学世界を説明するという点で、遠藤研究者の中でも独特な地位を占めている。遠藤に対する氏の情熱と深い理解は、すでに二〇〇七年に上梓した『遠藤周作の世界——シンボルとメタファー』（教文館）にも十分あらわれている。この度の著作『遠藤周作による象徴と隠喩と否定の道——対比文学の方法』（キリスト新聞社）は、こうした氏の遠藤研究がさらに深まったことを物語る快挙である。

氏が遠藤文学を「象徴」（シンボル）と「隠喩」（メタファー）という視点から理解していることは、上記の二つの研究書の目次を一瞥するだけでも明らかである。前者の『遠藤周作の世界』は、「深い河——「永遠の生命」の水と人間の「深い河」（第一章）、「象徴と暗喩の色彩論Ⅰ——「白」と「黄色」を中心に」（第二章）、「おバカさん」と「ヘチマくん——人生の認識のドラマとして」（第三章）、「象徴と暗喩の色彩論Ⅱ——『海と毒薬』の場合、海の「碧」対「黝」（第四章）、「象徴と暗喩で読み解く『沈黙』（第五章）で構成されている。

また、この度の新著は、三つの章——「神学と文学の接点——「神の母性化」をめぐる」（Ⅰ）、「象徴と隠喩と否定の道」（Ⅱ）、「対比文学研究——遠藤周作、ドストエフスキー、モリアックとG・グリーン」（Ⅲ）にわたって遠藤文学を解剖しており、それぞれの章にはさらに細分化したテーマが設定されている。

遠藤は「ダブルイメージ」を適切に使う作家であり、彼の作品世界には、可視的な物を用いてその背後にある不可視的なもの——究極的な実在としての神——を指し示すものとしての「象徴」と「隠喩」が好まれている。そして、不可視的なものを言語としての「象徴」と「隠喩」によって現そうとする試みは、「否定神学」（theologia negativa）という、キリスト教の長い伝統につながるものである。

ここで評者が特に注目したいのは、氏の提案する「対比文学の方法」である。氏は、遠藤を「多面体の作家」（一七一頁以下）と名づけた上で、このような観点で遠藤の多様なジャンルの作品を分析する。次の箇所には、氏の遠藤理解が凝縮された

形であらわれている。

「遠藤は先行の文学作品その他から影響を受けながらも同時に彼固有の何かを付け加える。それゆえ遠藤の原作品・原思想に対する「屈折率」の解釈学が我々の課題となるのだ。さて彼のような「多面体」の作家の作品理解のためには従来の文学研究の方法だけでは不十分という思いから私としては例えば従来からの比較文学的方法ではない、比較（対比）思想的方法——二つの相異なる文化の間に発生した思想（哲学）や宗教の類似性と差異性を構造的に比べ合わせる方法——を応用した「対比文学」的方法によって作品解釈することを提案したのである。」（二九五頁）

ここで氏が用いた、「屈折率」、「多面体」、「対比文学」という用語は、言うまでもなく、その根本において解釈学的な意味をも持っている。そして、解釈学的な立場から遠藤を理解するということは、遠藤の作品を生み出した、いわゆる「芸術体

験——兼子氏も述べているドストエフスキー、モリアックとG・グリーン等の文学作品を熟読することで得られた体験——を重視することを意味する。遠藤自らも述べたように、彼の文学世界は、「棄てられた」母、「非自発的な」洗礼、病床体験などの「人生体験」のみならず、そうした「人生体験」を「体験」たらしめる「芸術体験」の上に築かれたものである。なぜならば、「体験」とはいかなる時でも解釈・理解された「体験」であるからである。遠藤の「人生体験」は、彼の「芸術体験」によって結晶化されたものである。

紙面の都合上、兼子氏の新著が持つ意義について、これ以上詳説できないが、この著書が、遠藤周作研究において新しい地平を切り開いたことは言うまでもない。氏の著書を、読者諸賢と共に深く吟味したいと願う次第である。

（さむ・そんちよる）南山大学人文学部教授
（四六判・二三三頁・本体二五〇〇円＋税・キリスト新聞社）

神学ダイジェスト125号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2018年12月発行
A5判112頁
定価630円（税込）

- 特集 現代における黙示文学
- 巻頭言 黙示録のヨハネを巡る歴史的状况 福嶋裕子
 - 聖書の黙示文学「いつまでもこのままではない」 J・エバツハ
 - 模範としてのヨハネの黙示録 X・A・サンタマリア
 - ポストモダンにおける終末論と黙示思想 C・M・アルパレス
 - 時間のうちにある神 キリスト教の黙示文学的ルーツ J・B・メッツ
 - フクシマ後に、聖書を読む 加藤久美子
 - 苦しみと聖なる可能性 神は憤り、涙する P・R・マツカロール
 - マザー・テレサ「貧しき人々の聖人」 F・ウイルフレッド
 - （最終回）「正教神学概論」像と似姿 V・ロスキ
 - 律法の詩編——典礼の書から知恵の書へ E・バルホルン

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

権力が最も恐れるもの
ジョン・ディア著
志村 真訳
剣を収めよ
創造的非暴力と福音



金井 創

私が沖繩・辺野古での新基地建設阻止行動に従事して11年になります。この行動でこれまで固く守ってきたのは非暴力で抗議、直接抵抗することです。それは大切であると同時に挑戦でもあります。政府によるむき出しの暴力に対して暴力をもって立ち向かうことなく、しかし臆して後退するのでもなく、前へ進んでいくには幾度となく内面の葛藤を経験してきました。私も、イエスは非暴力抵抗の道を全うした方と信じ、その足跡に従っていこうと歩んできましたが、本書はその道を鮮やかに照らし出し、勇気と励ましを与えてくれます。

体を張って命がけで基地建設を止めているんですね、と言われることもあります。そんなつもりはありません。安全に、誰一人けがをせず、生きて海から帰ってくることを目標にしています。しかし同時に非暴力で基地建設を具体的に止める。それには冷静さとユーモアが必要です。本書にもユーモアの果たす役割の大きさが述べられていて、いちいちうなずきながら読みました。

平和活動家・思想家である著者ジョン・ディアが非暴力直接

は賛成であると数えられます。

法を守ってその範囲内で抗議する。そのことは現場で警察からも海上保安庁から言われ続けてきました。同じ言葉が現場には来ないキリスト者からも聞かされることがあります。しかし、国の暴力を支えているような法ならば、それを破つても非暴力で抵抗していく。本書にはその実例と、それこそがキリスト者の進むべき道であることが示されています。

社会の変革を求めたアメリカの運動は様々ありますが、どれも最初から、運動継続中も、最終局面においてすら希望なしだったということに、著者は「奇妙にも慰めを感じ」ています。それには本当に共感します。辺野古でも客観情勢は全く希望なしです。次から次へと政府は強権をもって沖繩を押しつぶそうとしています。しかし、そこに光が当てられます。鍵は普通の人々だと。特別に選ばれた人、エライ人ではなく普通の人々が頑張る時、非暴力抵抗の普通の事柄を行い続けるとき、希望への突破口が開かれるのだと言っています。

抵抗の道を歩み続けるのに希望の光を与えた人々の中には、その行動ゆえに命を奪われた人、病で命を落とした人もいます。その中には直接の友人も含まれ、その交流の記述には温かみと胸に迫るものがあります。辺野古では暴力的に命を奪われた人こそいませんが、共に闘ってきたかけがえのない仲間が病で、そして阻止行動中の事故で10人以上が亡くなりました。皆、最後まで現場に居続けた人です。著者も言及しているように、その人々が最後まで全うした生き方は道しるべとなつてあとに残った者を支えてくれます。

著者は現場で祈り、現場で礼拝し、現場で行動しています。祈り、礼拝、行動がすべて神に結ばれたものとして一つになっています。これらを切り離して考えるキリスト者がまだ多いのではないのでしょうか。教会や牧師は国に反対するような政治的発言、社会的活動をすべきではないと。

しかし、本書に紹介されている人たちの環境がそうであったように、今の日本、政府がこれほどの強権的な姿勢で暴力を使用している時に、大きな声で明確に反対と言わなければ、それは賛成であるという人々はいずれも、とても真似できないような生き方を貫いています。命がけの抵抗をした人もいます。はるかにそびえる山の頂を仰ぎ見るような気持ちにもなります。はあ、自分にはとても無理だと。しかし、「権力の座にある者たちが最も恐れることは、普通の人たちによる消え失せることのない運動」だという言葉に奮い立たせられます。

訳者あとがきの最後にはこう書かれています、「本書を、沖繩をはじめとする日本全国で反戦・反核・原発の非暴力行動に取り組んでいる仲間たちに……ささげます」と。各地で展開されている取り組みに想いをつなげ、本書を通して希望をプレゼントして下さった志村真さんに心から感謝します。

非暴力行動に取り組んでいる人、関心のある方には、これも志村真さんが訳されたウォルター・ウイंक著『イエスと非暴力』（新教出版社）も合わせて読まれることをお勧めします。

（かない・はじめ）日本基督教団佐敷教会牧師
（四六判・一七八頁・本体一八〇〇円＋税・新教出版社）

日本の教会が誇る
クリスマスの名説教

輝く明けの明星 待降と
降誕の説教
平野克己編

植村正久、羽仁もと子、井上洋治、左近淑、澤正彦など、アドヴェントとクリスマスの喜びを語り継いできた17人の説教を収録。各編に解説付き。

四六判 並製・264頁・2700円

子どもとつむぐ
ものがたり
プレイセラピー
の現場から

小嶋リベカ

心にきずを持った子どもたちを「プレイセラピスト」として支える著者が、どう子どもに寄り添うか体験に基づいて綴る。

四六判 並製・152頁・1,620円

出版を記念して著者の講演会を開催

日時 2019年1月27日(日)
午後3時～5時

会場 日本基督教団 美竹教会
「渋谷駅」東口から徒歩5分

入場無料

和解への
祈り

桃井和馬 写真・文

気鋭の写真家による珠玉のフォト・エッセイ。著者の深い洞察と世界各地の心に迫る写真が、私たちに和解の実践を促す。

A5判横 上製・96頁・2,160円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

イエスのたとえ話の再発見

古典的名著が読みやすい新訳で
ヨアヒム・エレミアス著
南條俊二訳



廣石 望

本書は、エレミアス著Die Gleichnisse Jesu(一九四七年初版)のドイツ語普及版(一九六五年)の英訳(一九六六年初版)の改訂版(一九七七年版の第五刷一九九三年)の翻訳であり、いわば「孫訳」に当たる。原著は、二〇世紀新約聖書学の古典的名著に属する。ドイツ語普及版の邦訳『イエスの譬え』(善野碩之助訳、新教出版社、一九六九年)は、訳者によれば「元々のドイツ語原文が難解で、それを基にした日本語訳も一般信徒にとっては難しすぎる」(訳者あとがき)二八五頁)。評者は両訳を再び読み比べているが、本訳はじつさい読みやすいと思う。

エレミアス(一九〇〇—一九七九年)は、史的イエスの宣教と原始キリスト教の神学を、同時代のユダヤ社会と文化を背景に置きつつ説明することに力を注いだ。上掲『イエスの譬え』以外に、『新約聖書の中心的使信』(川村輝典訳、一九六六年)、『イエスの聖餐のことば』(田辺明子訳、一九七四年)、『イエスの宣教——新約聖書』(角田信三郎訳、一九七八年)などが邦訳されている。

さて、本書『イエスのたとえ話の再発見』の目標として、上

掲『イエスの譬え』のドイツ語版(第六版)序文の有名な発言が再び現れる。すなわち「イエス自身が語った言葉にできる限り近づけるような道筋をたどろう」とするのが狙いであり、それは「人の子自身とその言葉だけが、私たちの福音宣教に権威を与えることができる」からである(はじめに「四頁)。これに対応して本書は、イエスの言葉の再構成(史的分析)と福音宣教の根拠づけ(神学的解釈)の結合から成る。これは、史的イエスを新約神学の「中核」と見なす立場の表明であり、当時R・ブルトマンが史的イエスをその「前提」ではあっても内実でないとしたことへの反論である。

前者の史的分析の手法は、今なお妥当性をもっている。第II章「原始キリスト教からイエスへの回帰」で指摘される指標のうち、とりわけ「旧約聖書と民間伝承の主題が影響した」「聴衆が変えられた」「原始教会は信徒に勧告するために使った」「原始教会の置かれた状況の影響」「寓喩的解釈」「たとえ話の収録と融合」そして「枠組み」がそうである。

他方で、後者の神学的解釈については、第III章「イエスがた

とえ話で伝えようとしたメッセージ」の各段落の表題が参考になる。すなわち「今こそ救いの日だ」「罪人への神の憐れみ」「大いなる確信」「災厄を目前にして」「遅すぎるかもしれない」「時間の挑戦」「明確にされた弟子の役割」「人の子のたどる苦難の道と大いなる喜び」そして「救いの業の完成」である(上記のうち「災厄disaster」は「破滅」、「時間the hour」は例えば「決定的な時」、「大いなる喜びexaltation」は「高挙」がよいであろう)。個々のイエスの譬えを解釈するためのこれら九つの項目は、明瞭にルター派的敬虔主義の伝統に彩られている。

つまりエレミアスは、伝承史的な発展(変更)という点では、イエスと原始キリスト教を截然と区別することを知っている一方で、両者の神学的連続性を彼の属する信仰伝統に即して擁護する。過去の現代的解釈は不当でない。それでも、イエスはルター派でなかった。

譬えの解釈学の点で、エレミアスはA・ユリーッヒャー(一八九九年)に賛同しつつ伝統的な寓喩的解釈を斥け、譬えを修辭学的な説得手段と理解する一方で、C・H・ドッド(一九三

五年)が「神の国」を現在論化したのに抗して、これを終末論化する(一四—一七頁)。しかし前者に関連して、エレミアス以降の過去半世紀、ユリーッヒャーがモデルとした「直喩」に代えて、意味論的な衝突を核とする「隠喩」を意味論的モデルに据える潮流が台頭した。つまりイエスの譬えは、「神の国」宣教への批判に対する再反論(リアクション)としての「論争の武器」(一八頁)というより、新しい現実を指示する第一義的な宣教行為(ファースト・アクション)であり、「実際に起きた事実を基にしている」(二〇頁)のでなく最初から詩的虚構であり、イエスは自らの発話意図(命題)を伝達することより、神と世界に関する新しい理解を聴者自らが獲得することを目指した。すると後者の、「神の国」の現実が未来的か現在のかという問いも、譬えにおけるイメージ意味論の問題に置き換えて検討されてしかるべきであろう。

(ひろいし・のぞむ)立教大学文学部教授
(四六判・二九八頁・本体三〇〇〇円＋税・新教出版社)

教文館の本
http://shop-kyobunkwan.com/

好評発売中



世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ ● 本体28,500円

手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック

天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 / 内容見本・図書目録 ● 価格は税別

晩年の内村を克明に描いた貴重な記録

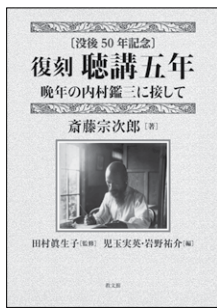
斎藤宗次郎著

児玉実英／岩野祐介編

田村眞生子監修

復刻 聴講五年

晩年の内村鑑三に接して



鈴木範久

本書を手にした人は、まず驚くだろう。厚さ(七八八ページ)もさることながら、著者の原稿全文が写真版で復刻されているからである。その理由のひとつが著者斎藤宗次郎自身の描いた挿絵を生かすためと思われる。

斎藤家に保存されていた原稿(二荊自叙伝)を、娘の斎藤多祈子さんの御厚意によりはじめて拝見したときは、何十年前になるだろうか。少なくとも新しい内村鑑三全集の編集作業の開始される数年前と思われるから、すでに半世紀は昔になる。まづ膨大な量とともに全文がきれいに清書されているのを見て一驚した。そのとき、どこから挟まれたメモ紙の端切れが出てきて、その作業の一端を垣間見る思いがした。すなわち、著者は内村鑑三の言葉に接すると、ただちに有りあわせの紙片に書きつけて、それを何度も何度も清書して本記録に仕上げたのである。このことは今回の本書を見れば書き直しの痕跡の皆無に近いことから判明する。

著者は一九二六年に花巻から上京して杉並に移転、柏木で開催されていた内村鑑三聖書研究会に毎週出席するようになった。

それらと比較すると、斎藤宗次郎により本書に収められた記録は、いっそう生々しい。両者の相違から感じられることは、内村が両者に見せた顔と言葉の相違であり、それとともに内村の言葉を受け取る側の関心の相違でもある。たとえば本書では、内村が想像以上に皇室および個人的な会員に関して言及している点である。

なかでも目立つ記事の一例は、最後には分離にいたる内村と塚本虎二との関係である。特に内村の塚本に関する手厳しい批評は、塚本側の理解がないから、まず事実か否かの問題とともに、あくまで斎藤の理解した内村の塚本評と受け取らなくてはならないだろう。実は、生前の内村については、接した人々の時期、性別、性格などにより、多様な理解と反応のあることを評者は知らされている。その結果を本書にあてはめて言うならば、語る内村は晩年の病気がちの時期にあたり、語る相手も斎藤宗次郎という、若い時分から遠慮なく注意を与えてきた関係

それだけでなく研究会の会場整理をはじめ『聖書之研究』誌の發送など、身近で内村に接する生活が多くなる。こうして著者の生前には自叙伝にもとづき『ある日の内村鑑三先生』(教文館、一九六四年)、自身が世を去った後には『恩師言』(教文館、一九八六年)が刊行された。なかでも内村が世を去る瞬間の描写に至っては、分刻みで師の呼吸数が記録されていて冷徹なまでのリアリズムに言葉を失った。本書にも収録されているように、一九三〇年三月二八日朝八時五十分、内村の最期に関する記録は「呼吸 四」を数えた直後に「軽く コトと音を遺して最後の息を神の全能の聖手に捧げらる」とある。

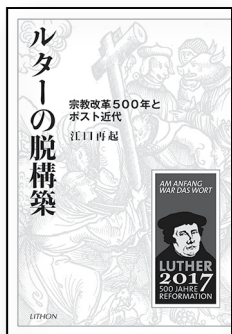
本書に収められている内村の聖書研究会における講演の主要なもの、編者の一人岩野祐介氏が注記しているように公式には雑誌『聖書之研究』に発表され『内村鑑三全集』にも収められている。ほかには前講をつとめた畔上賢造や塚本虎二の講演内容の記録もあつて参考になる。

講演はじめ身辺の出来事は、すでに石原兵永の『身近に接した内村鑑三』全三巻(山本書店)でも一部を知ることができる。

の人物に向けられたものである。「人を見て法を説く」という言葉があるように、本書に収められた内村の塚本に対する人間評は、斎藤個人にみせた内村の顔としてみる必要がある。

末尾になったが、本書を読みながら時折、学窓を共にした故斎藤佳代子(夫は編者児玉実英氏)さんの若き日のことが思い出されてならなかった。とりわけ祖父宗次郎から愛された孫とも聞いていたから、もつと祖父の話をしたかった。

(すずき・のりひさ)立教大学名誉教授
(B5判・七八八頁・本体一八〇〇円+税・教文館)



江口 再起 著 ルターの脱構築

宗教改革 500 年とポスト近代

●四六判並製 219頁
本体1,500円+税

昨日に目を向ける、するとそこにルター神学の核心点が心に刻まれてくる。それを私は「恩寵義認」と名付けたい。今日に目を向ける、すると私たちが生きているのはフシマの時代だということがわかる。その中でルターについて考える。それを私は「三つのE」という言葉で表現してみた。そして明日に目を向ける、すると何が一番肝心であるかが見えてくる。「ルターの脱構築」である。恩寵義認、三つのE、ルターの脱構築、この三点が本書の語りたいことなのである。

ISBN978-4-86376-068-4

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

イエスと社会と共に歩む教会へ——招きの一書
鶴ヶ岡裕一著

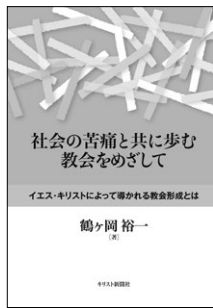
社会の苦痛と共に歩む教会を めざして

イエス・キリストによって導かれる教会形成とは

著者は福祉大学で学び、社会的に立場を弱くされてきた人々と長年歩み、神学校で学ばれた方である。社会的存在である教会のあり方を問う本書は、著者が東京バプテスト神学校の卒業論文として執筆したものに加筆訂正した冊子である。

本書は四つの章からなっている。第一章では教会は社会の中にある存在である事が述べられている。教会が自らの利益・不利益だけを優先し、人を「対象・道具」とし、「愛」ではなく「力」を基盤とするあり方が「キリスト教企業化」と呼ばれ、批判される。それは「政教分離」の誤解から自らが社会的存在であることを無視しつつ、その実、「力」に依ってマジョリティを形成する社会に追従しているという自己矛盾を抱え持った教会に対する批判であろう。

第二章には具体的に著者が関わってきたハンセン病と生活保護に対する問題が記されている。「脱亜入欧」と軍事化に伴って現れる優生思想と「らい予防法」の歴史が記され、謝罪なき「らい予防法」廃止（一九九六）とらい予防法違憲国家賠償訴訟勝訴（二〇〇一）、さらに現在進行中の「ハンセン病家族訴訟」



濱野道雄

に至る人々の「思い」が記される。その「思い」を、著者が患者から聞き書きしてまとめた「時の響き」という詩は非常に印象的であり、胸に迫る。また生活保護についても、「濫給問題」に対してその四〇〇倍ある「漏給問題」への取り組みや報道の無さ、その背景となる構造的貧困の問題が指摘される。

第三章では、ホームレス支援を行っている牧師および教会の事例が紹介されている。支援活動を牧師個人だけの事柄ではなく教会の事柄にする難しさと可能性や、「支援と伝道」の関係の捉え直し、教会外の社会資源との連携など、全ての教会の形成にとって重要なテーマが見える。

第四章には神学的考察がなされる。まずヘブライ語聖書、新約聖書の双方より、教会や個人に対する言葉として愛唱されてきた言葉が、本来は、神が小さくされた人々を選ぶ言葉であり、社会の苦痛と共に歩むようにとの言葉であることが示される。そして「教会は、イエスの福音の出来事に感動した人々の集まる『場』である」と述べられている。

本書に多くを学ばされ、深く首肯する。そこに記されている

のは、単に「社会的プログラムをどうするか」という問題を越えた、教会の根本的な問題だろう。社会的プログラムを行った方が「教勢」が伸びる事はマッキンジーの調査などにも明らかであるが、しかし問われているのは教会が教会であるのか、つまりイエス・キリストと共に、社会の苦痛と共に歩み、その解放を目指しているのかということだろう。

その上で、冊子という紙幅により述べる事が出来なかったであろうコンテキストが頭を巡る。例えば第一章で言えば、ボンヘッファーの「他者のための教会」からボッシュの「他者と共なる教会」の流れが世界では宣教論の主流であるにもかかわらず、日本の教会に著者が指摘する問題があるのは、アメリカの教会の、南北戦争から現在にいたるまでの宣教論と神学（それが特に終末論にあることを、評者は現在滞在しているパレスチナ・イスラエルで体感している）の変遷が日本の教会にも多大な影響を与えているためだろう。第二章で述べられている貧

困の問題も、グローバル化における「国家」安定のため、意図的に貧困が作り出されているコンテキストが頭を巡る。第四章で述べられる聖書に関しては、著者が挙げた箇所がある一方、聖書には差別的抑圧的な箇所もある。教会が「教条的」にならずに絶えず現場に聞き直すためにも、イスラエルの歴史から預言者、知者、イエスへの流れをコンテキストあるいは歴史で押さえることは重要に思える。

いや、だからこそやはり、実際に教会を変えるのは理屈ではなく出会いだろう。著者が紹介する実例は次の一歩への招きになっている。本書に述べられる、本田哲郎神父の指摘する悔い改めⅡメタノイアⅡ視点の変換を行い、足元から何事かを始めることが、教会にはゆるめられているはずだ。

（はまの・みちおⅡ西南学院大学神学部教授
A5判・六四頁・本体九二〇円＋税・キリスト新聞社



新刊

宗教改革 500周年と わたしたち 5

ルター研究 別冊5号

ルター研究所 編

●A5判並製 定価：2,000円＋税

ルターの脱構築
江口 再起

ルターにおける「律法と福音」、
その重層的構造
石居 基夫

今日的課題としての
「ルターと聖書」
立山 忠浩

ルターと十字架の神学
宮本 新

ルターを囲む人々と
その時代風景
高井 保雄

宗教改革と美術
真下 弥生

メンデルスゾーン
交響曲第五番《宗教改革》
加藤 拓未

LWF・ルター派聖書解釈学研究文書
ルター派共同体における聖書
安田 真由子 訳／李 明生 解題

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

教会形成の背後に、「聖書に聴き従う」
聖書信仰！

赤江弘之著

聖書信仰に基づく教会形成 西大寺キリスト教会の歩みを一例として

本書の書評の依頼を受けて、光栄に思う気持ちと、ためらう気持ちがありました。「光栄に思う」とは、地方伝道の閉塞と教会の停滞、教会消滅の危機感さえ叫ばれる昨今、「備前西大寺、裸祭り」で有名な観音院のある門前町（七頁）で、昭和五年の開拓開始以来、幾多の苦難を乗り越えて、乳飲み子から高齢者まで二〇〇名を超える礼拝者、五〇〇人規模の礼拝堂、二棟の教育館、幼児園から小中高校までのチャーチスクール、高齢者のための施設まで兼ね備えた西大寺キリスト教会。この、日本において希に見る教会形成を成し遂げている教会の理念と実践が記される書物を紹介できるのは、この上ない光栄なことと思つたからです。

「ためらう気持ち」とは、書評を書くには評者は距離が近すぎると思つたからでした。評者にとって伝道者としての最初の任地、そして牧師、伝道者としてのあり方に決定的な影響を受けた恩師が、西大寺キリスト教会であり、著者の赤江弘之牧師なのです。

けれども、わずか六年とは言え、実際にこの群れの歴史の中

基づくものであることが強調され、それゆえにこそ堅実で柔軟で、幅広い伝道と教会形成が為されていることが証しされています。

B・F・バックストンの流れをくむ良き敬虔の伝統を受け継ぎながら、聖化論の理解を巡って所属教団離脱に至るまでの道を通り、厳格な長老主義の神学と教会形成を標榜するに至るといふ、ある意味で「異色」とも言える教会の歩みの背後にあるのは、徹底的に「聖書に聴き従う」という聖書信仰のゆえであったことが分かります。

「はじめに」で著者がことわりを入れているように、本書は著者が属する教団の教師役員対象の研修会の講演準備の過程でまとめられたもので、過去の様々な資料や諸文書からの抜粋によつて成り立っています。ほぼ講演のアウトラインであったり、簡易書きでポイントが挙げられているのみのものもあり、必ずしも読みやすい本ではありません。しかし、読者がじっくりと

岡山、赤穂線、西大寺……。御国建設の福音はここに響いて。

赤江弘之著（日本同盟基督教団西大寺キリスト教会主任牧師）

聖書信仰に基づく教会形成



教会存亡の危機の中、与えられた一〇〇〇人教会の幻とその後を驚くべき成長。聖書を字義通りに解釈し、愚直なまでに聖書に忠実な教会づくりの心血を注いだ五〇年の牧師人生を通して語る「恵みの終活」好評発売中！ヨベル新書049・二〇八頁・一〇〇〇円



朝岡 勝

に加えられた者として、本書をぜひ多くの方にご紹介、お薦めしたいと思ひ、一文をしたためています。

本書は「第一部 聖書信仰の理念」、「第二部 聖書信仰に基づく教会形成について」、「第三部 私の教会形成の足跡」の三部構成となっています。本書を通して強く印象づけられるのは、聖書の理念に立った、堅実かつ柔軟な、幅広い教会形成ということ。何事も簡便性、即効性が求められる今日、伝道と教会形成においてもそのようなハウツーへの欲求は高まる一方で、しかし本書から教えられるのは、「伝道に王道なし」、「教会形成に近道なし」。愚直なまでに聖書に聴き、聖書が教える理念に沿って地道に進む教会の姿です。

内容的に本書の本論部とも言える「第二部 聖書信仰の基づく教会形成について」（四四―一四〇頁）では、「I 聖書の教会観について」、「II 聖書に基づく教会の理念・目的・ビジョン」、「III 聖書信仰と教理と説教による教会形成」、「IV 聖書に基づく伝道論と実践」、「V 聖書に基づく教会開拓」、「VI 聖書的な交わりのある教会形成」と、あらゆる教会の活動が聖書的な理念に

本書と向き合い、短い言葉や行間に込められた含蓄をくみ取るならば、まことに豊かな実りを受け取ることができるといふ。そして何よりも巻頭にある「西大寺教会物語」を味わうとき、このストーリーの中で織りなされた教会形成の現実に感嘆の声を上げることでしょう。

本書は、今日も岩地のような、泥沼のような伝道の現場で、日々苦闘を重ねる伝道者と教会に励ましと確信を与えるものです。「この町にわが民多し」。この約束を握り締めて、それぞれの教会物語を紡いでいきたいと願わされています。

（あさおか・まさる）日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師
（新書判・二〇八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

山口勝政著（J.E.C.A.八郷キリスト教会牧師）

福音主義聖書論



健全な聖書観なしに健全な教会形成なし。現代に聖書の「無誤性」を力強く宣言する書。「神学」的妥協が教会の生命を奪う。この強い危機意識から「聖書は誤りのない神のことば」というキリスト教信仰の生命線を守りつつ、地方伝道に長く携わってきた「牧会者論考」*古未発表予定 四六判・二〇八頁・一三〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・呈

「歴史神学的」問いに満ちた書！
 湊 晶子著

初代教会と現代



永田竹司

本書の著者、湊晶子氏は今年八十六歳を迎えられて、現在も広島女学院院長及び同大学学長の重責を担われている現役の研究者であり、教育者である。この度、一九七三年から二〇一六年の期間にさまざまな紀要・論集などに掲載された二七編の論文（一部講演）がまとめられ、誰もが容易に手にすることができ一冊の本として出版されたことを心から喜びたい。

本書では、これら二七編の論文が初出順ではなく、第一部「ローマ帝国とキリスト教」、第二部「キリスト教人論と日本の教育」、そして英文による論文を含む第三部「女性と社会」というテーマに即して編纂されており、読みやすい構成になっている。

本書を読んで、歴史研究を専門とする著者の鋭い考察に深い興味と問題意識を喚起させられたのが、第一部の「ローマ帝国とキリスト教」である。

初代教会時代のキリスト教徒が受けた迫害を、皇帝礼拝の拒否に起因したとする一般的な理解で良いのだろうか。むしろ、

ローマ市民は皇帝の神格化に潜在的に抵抗を示していたのではない。もしキリスト教への敵視の主要原因が政治的な皇帝礼拝でないのであれば、敵視と迫害の理由は何であったのか。
 ローマが帝国を拡大していくにつれ、被征服民の宗教もローマ領内に包含されていく。東方の多くの密儀宗教もローマで受容されていく。注目すべきは、基本的には一神教的性格を持ち、日曜礼拝、洗礼、聖餐など、キリスト教と際立った類似が認められると指摘されるミトラ教もローマ帝国で受容され発展を遂げる。それなのになぜキリスト教はローマ市民からも憎まれ敵視されたのか。歴史的疑問の謎解きの連続である。
 さらに第一部には、国家権力とキリスト者の取るべき態度に関連する新約聖書箇所を考察、また注解書ではなかなか詳述されていないローマ社会における自由人と奴隷の実態を歴史的に考察する視点から第一コリント書やピレモン書が論じられていることを指摘しておきたい。

第二部では、二〇〇六年の国会での教育基本法改正案の可決

に対する深い危機を背景に、キリスト教大学の教育の目的はどこにあるかが論じられている。著者は歴史家に相応しく、先達の人たち、特に東京女子大学の初代学長であった新渡戸稲造の、国家ではなく国家を越える絶対者との垂直の関係において確立される「個」としての人格と、個の交わりとしての水平的に広がる「公共」の概念を中心に教育論を展開し、そのために不可欠なりベラル・アーツ教育の意味と必要性を論じている。平和の問題、宗教を含めた寛容の問題も言及されている。

第三部も、「女性と社会」のテーマが歴史的に考察されている。新約聖書に記されている女性たちの活躍、宗教改革時代のルターの妻カタリーナ・フォン・ボラ、一八世紀イギリスにおける信仰復興運動の指導者ジョン・ウエスレーの母スザンナなどがそれぞれの歴史的脈の中で鮮明にされている。

またフェミニズム運動の歴史的考察、さらに女性解放としての米国流フェミニズムと女性自立としての日本のフェミニズムという分析と考察など、示唆に富む議論に満ちている。

教会と国家、信仰と教育、女性と社会——生涯をかけて綴った初の論文集！

湊晶子著 (広島女学院院長・学長) AS判上製 五二五頁 三、五〇〇円 絶賛発売中！

初代教会と現代

日本における女子教育を力強く牽引してきた著者の学問の出発点となった、ローマ帝政下における初期キリスト教研究を第一部に集約。転じて、国際化時代におけるリベラル・アーツの大切さから、女性の自立と社会参画への道をキリスト教信仰の立場から追求した第二部、第三部構成の記念碑的著作。

最後に、本書は単に「歴史的」というより、正確には、「歴史神学的」考察から成る書であると言いつつ、紹介を終えたい。例えば、ローマ市民の宗教意識は、ローマという国家を加護する神々にふさわしい祭儀を捧げることであった。この国家宗教的慣習と政策を受け入れて、ミトラ教はローマ社会の中で勝利を得た。しかし、ローマと共に滅亡していった。それとは逆に、キリスト教はローマ市民の国家宗教的意識を一貫して否定し、迫害される道を選択した。現代日本において、政治権力によるというよりは、日本人民衆の天皇意識とローマ市民の宗教意識とが重なるのではないかとこの著者の指摘は、実に鋭い。キリスト者はどうするのか。本書はこのような鋭い歴史神学的問いに満ちた書物である。

(ながた・たけし) 国際基督教大学名誉教授 (A5判・五二六頁・本体三、五〇〇円＋税・ヨベル)

黒川知文著 中法学院大学教授、愛知教育大学名誉教授
 ユダヤ人の歴史と思想

ヘレニズム期からナチスによるホロコーストに代表される現代まで、世界中で連綿と行われてきたユダヤ人迫害。キリスト教世界の只中からなぜか、苛烈な反ユダヤ主義が生じ出したのか。その歴史を真直ぐに見つめつつ、この災禍を通して形成されていったユダヤ人固有の諸思想までを詳説する。
 *絶賛発売中 四六判・三三六頁・一八〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
 お問合せは info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
 TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
 *自費出版の専門出版社*資料・呈

キリストと出会い、いっしょに歩むことの尊さ——十四年
目に入った信仰のあかしの響き合いの現場からの貴重な報告

小笠原 優著

キリスト教信仰のエッセンスを学ぶ より善く生きるための希望の道しるべ

キリストと出会い、いっしょに歩むことの尊さを実感した信
仰者たちの心の軌跡が手に取るように浮かび上がる。このよう
な仕儀の信仰書を見つけ出すのは、昨今、なかなか困難であ
る。だいたいの信仰書は無味乾燥な概念の解説に終始するか、
文化的な知識の分かち合いを果てしなく繰り返すか、個人的
で感情的な感慨をたくみにまとめた随想となる場合がほとんど
だからだ。

しかし、本書は見事である。キリストと出会い、いっしょに
歩むことの尊さを、読者に対してダイレクトに伝えてくれるか
らである。その意味で、本書は潔い。読者は本書を読むことで、
おのずとキリストと出会い、いっしょに歩むことの尊さに目覚
めることになるからである。著者自身がキリストと出会い、い
っしょに歩むことの尊さを確かに実感しており、その味わいを
読者に向けてつづるから迫力がある。ゆるぎない経験に支えら
れた呼びかけだけが集約されている。まさに人生の「道しるべ」
としての信仰のエッセンスが読者の心に贈られる。これほどに
愛情深い贈り物を受け取らずに見過ごすことが出来ようか。



阿部仲麻呂

ところで著者の小笠原師はカトリック教会の信仰伝統を受け
継ぐ慈愛深い司祭であり、古今東西の諸宗教の奥義や古典文学
や哲学にも造詣が深い、卓越した神学者である。日々積み重ね
られてゆく黙想の深みにおいて身も心も澄み渡るほどの落ち着
きを湛え、常にあらゆる事象を透徹したまなざしで眺めつづけ
ている稀有な牧者である。二〇〇五年から現在に至るまで約二
百人以上の求道者を親身になって導き、四千頁分の感想文から
も学んだ小笠原師の意識的な努力と工夫の積み重ねが洗練され
て一冊の書物に結晶化したことで、より一層多くの人びとがキ
リストと出会う機会を得たことを、評者も心より慶びたい。

本書は、「使徒継承の信仰に立脚した聖書の正確な読み」を
土台として、「キリストとともに生きる」ことのよろこび」を
実感させることを目指している。そのような仕儀は独力では実現
出来るものではないがゆえに読者も「使徒継承の教会（信仰共
同体）」に洗礼をおとして参入しつつ日々の生活を究めてゆく
ことになる。信仰理解の歩みは、日々の黙想と実践とが絶えず
循環すべく絶妙に呼応する軌跡そのものなので、まさに「らせ

ん的な道行き」となる。

それでは本書の内容を順に見たい。まず「導入 キリスト教
信仰のエッセンスを学ぶ」では、キリスト教の立場の基本線が
紹介され、読者をして聖書の核心にも直に触れさせるとともに
祈りの重要性が見直され、科学を始めとする人間的な眺めだけ
では私たちが決して満たされないことが示される。次に「第一
章 なぜ『キリスト教』というのか」では、祈る人間の共同体
としての宗教の意味から始めて、次第にキリスト教の存在意義
が浮かび上がるように導く。そして「第二章 イエスをめぐる
歴史的な背景」では、キリスト教の原点としてのイエスの生活
背景を紹介する。こうして「第三章 イエスの教えと行動」で
はイエス御自身の生き方を聖書の文章を直に引用することで読
者に追体験させる。さらに、独創的で秀逸な「第四章 イエス
の死と復活」ではイエスが目指していた生き方の核心が詳細か
つ多角的に紹介される。その眺め方は「第五章 キリスト教の
誕生」において明確に示されるようにイエスの弟子や後継者た

ちによるあかしの積み重ねにもとづく。まさに二千年にわたる
イエスの後継者たちによる関わりの日々の尊い積み重ねは「第
六章 死を超えた希望を生きる」という完成のときに向かう壮
大な歩みとなる。最後に「結び・キリストを信じて生きる」に
おいて明らかにされるように、イエスをキリスト（神から選ば
れて使命を託されて全人類に救いをもたらす者）として心の底
から信頼しつつも日常生活を愛情深い実践の場として重んじる
ことの大切さが呼びかけられる。

長年にわたりキリスト論を講じてきた小笠原師の切実なまご
ころは以下の一文に顕われている。「父なる神はご自分が遣わ
したイエスのどん底の姿（無化の姿）を見とどけ、ご自分のい
のちの中へと立ち上がらせたのでした。まさに『過ぎ越しの奥
義』です」（一七四―一七五頁）。このキリストを理解し、ともに生
きたい。

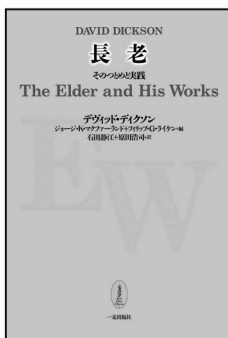
（あべ・なかまろ 日本カトリック神学会理事、日本宣教文書館理事）
（A5判・二八八頁・本体一六〇〇円＋税・イー・ピックス）



長老

そのつとめと実践

デヴィッド・ディクソン
石田静江・原田浩司*訳



長老の適性・具体的な職責とは。
神の民のよい羊飼いとなるための
簡潔で確かな手引き。
いま改めて治会長老のつとめを、
本場スコットランドでの
実践から考える。

A5判・並製
定価【本体 2,000 + 税】円
ISBN978-4-86325-116-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

犬養さんにとつてのガリラヤは「筑豊」
犬養光博著

「筑豊」に出会い、イエスと出会う



小柳伸顕

この書を読み進めるなかで、通奏低音のように響いてくるのは、福音書記者マルコのことばでした。「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる」と（マルコ一六・七）。

このマルコのことばをこの書の随所で実感しました。とりわけ終章の「湖上を歩いたペテロ——福音伝道所四十六年を振り返って」では、その感を強く持ちました。この章は、犬養さんが二〇一一年、福音伝道所を閉じる決心をしたあと、近くの飯塚教会の礼拝で話されたものです。そのお話の中で、在日外国人、特に在日朝鮮人の指紋捺捺拒否運動にトコトン取り組んだ加藤慶二さんの生と死に触れながら、「名もなき尹東柱たち」に話が及ぶときに、犬養さんにとつてのガリラヤは「筑豊」と思わざるを得ませんでした。

犬養さんにとつての「筑豊」はきわめて具体的です。閉山炭鉱とことばたちにはじまり、在日朝鮮人元炭坑労働者、ハンセン病元患者、生活保護の人たち、公害企業カネミ等々です。これらは「テーマ」ではなく、そこで起きた人々との出会い、そ

の一人びとりとトコトンつき合った記録が本書です。しかもその出会いの中で、「教会」とは何かが追求されています。その裏付けが、「ほくにとつての教会」「教会はどこに立っているのか」の二本に収められています。

別の言い方をすれば、本書は「筑豊」からの鋭い教会批判の書とも読めます。その批判は、理論上の批判ではなく、きわめて具体的な行動による教会批判です。しかも深く聖書と対話する中から生まれた教会批判です。犬養さんは聖書を読まず、ただ社会的な活動をする牧師と誤解されていたようですが、そこそ誤解です。無教会の指導者高橋三郎から聖書について学び、それを福音伝道所の集会和ハンセン病の元患者さんたちと聖書を読む中で実践していました。

犬養さんの教会批判は、炭坑の記録作家上野英信や、一人の炭坑労働者として働きながら戦争責任を追及した牧師服部団次郎との出会いからも生まれました。

公害企業カネミ前の座り込みで、カネミの被害者紙野柳蔵さん一家と出会い、犬養さん自身が五〇〇回座り込みを続けるな


かで、一つの教会批判を実践しました。この座り込みに対しては、尊敬する高橋三郎から「犬養さんには他にやるべきことがある」と忠告されましたが、その忠告に従わなかった話も出てきます。それは、犬養さんが座り込みで、教会は誰と共にあるべきかという問いを具体的に示す場を去ることができなかったからです。その姿勢は、さきにも触れた在日朝鮮人との出会いにも見られます。NHKを相手に本名で呼ぶことを求めた崔昌華牧師との出会いから生まれた金鐘甲さんとの出会いがあります。金鐘甲さんとの出会いは「クリスマスは俺の誕生日や」——強制連行被害者の人生と出会う」に記されています。犬養さんは、金鐘甲さんとの出会いを「サマリア人のたとえ」で語っておられます。しかし、犬養さんが金鐘甲さんの保証人になり、入院・闘病生活を支え、最後に葬儀をされたくだりを読むと、わたしはマタイ福音書二五章三二〜四六節を思い起こしました。犬養さんは誠心誠意一つ一つの出会いを大切にされました。そ

の証左が著書『甲旗』です。

また「おらぶ丈吉つあん」こと長野丈吉さんの出来事は、マルコ福音書五章一〜二〇節の記事と重なります。常識では丈吉つあんをアルコール依存症と排除しますが、丈吉つあんのおらびは真実の社会批判です。自分を抑圧した者への被抑圧者からの応答です。その応答が射つていなければならないほど、社会一般は排除に働きます。筑豊の丈吉さんの「おらび」はその証拠と言えないでしょうか。おらぶ丈吉つあんから福音書の読み方を示唆されました。

本書はどこから読んでもかまいません。しかし終章をまず読み、最初へ行くのも読み方の一つです。また読んでみて、書名は内容にピッタリです。出来たらぜひ上野英信『追われゆく坑夫たち』（岩波新書）を読んでください。

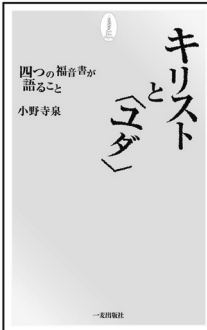
（こやなぎ・のぶあき）釜ヶ崎キリスト教協友会
（B6判・二五八頁・本体一六〇〇円＋税・いのちのことば社）



キリストとユダ

四つの福音書が語ること


小野寺泉
Izumi Onodera



**裏切り者ユダ？
福音書はどのように描いているのか。**

ユダは彼なりにイエス・キリストとその神の国運動を救おうとして奔走していたらしい……。四つの福音書から読み解く。

四六判変型・並製
定価【本体 1,600 +税】円
ISBN978-4-86325-115-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

和解の「印」として生きる実践家と、神学者との対話
スタンリー・ハワーレス、ジャン・バニエ著
五十嵐成見、平野克己、柳田洋夫訳

暴力の世界で柔和に生きる

シリーズ〈和解の神学〉



太田 勝

ジャン・バニエの世界は、昔から知ってるので、あらためて読むのもオツクウに思いましたが、読んでみてよかったです。わたしたちキリスト者が聖性に呼ばれていることを思い起こさせてくれたのは、うれしいことです。

ジャン・バニエは書いています。

「障がいのある人たちを訪ねて、関わりを求める原始的なままでに素朴な叫びを聴くとき、わたしのなかで何かが目覚めました。イエスが、愛を切望する人たちと共にいてくつろいでおられることがはつきりしたのです」(四〇頁)

「コミュニティの中で……障がいのある人たちは、そこに聖なるものがあることに気がついているのです」(四二頁)

「コミュニティでは、食べ・祈り・祝うのです」『祝う』とは、笑って、おどけ、楽しみ、共にいのちに感謝することです。……わたしたちはみな腹の底から笑うのです。……ほんとうにどうかしていると思うくらいに愉快なメンバーもいます。彼らは、どうかしているからおもしろいのであり、また、おもしろいからどうかしているのです。彼らと共にいるのは、すばらし

いことです」(四九頁)

「わたしたちの中にあなたがお住みになれる場所を、最後まで守り通さなければなりません。神がこの世界に現臨できるように、わたしたちが心を開いて神をお迎えしていなかったら、いったいどのようにして神がこの世界においでになることができるでしょう」(五三頁)

しかし、このような世界が、わたしたちの社会の中に、わたしたちの教会の中に、実現していくのは簡単ではありません。わたしたちがあげないように、米国を代表する神学者スタンリー・ハワーレスを組み合わせて、この本はできています。ジャン・バニエの世界に神学的な位置づけを与えて、わたしたちを支えてくれます。

たとえば、イエスは「宴会を——ほんとうにすばらしい食事の会を——催すときには貧しい人、足の不自由な人、体の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。排除されている人たちを招きなさい。そうすればあなたは祝福されるでしょう」(四六頁)と言います。

ぼくらは、和歌山で夜回り会をして、野宿の人たちの支援をしています。宴会は、炊き出し＝食事会といって月に一回だけです。その一回も、自分の家に招いているわけではありません。教会のホールに招いているだけです。

確かに、久しぶりに仲間にあえて、会話はするし、顔も見られますが、ジャンのコミュニティのように腹の底からの笑いはありません。世話をする教会のメンバーも限られていて、主任司祭に説教で「野宿の人たちは、イエスさまです。クリスマスだけでなく、寒くて教会ホールに泊まっている野宿の人に会いに行ってください」と言われても、すぐに回心、こころを善い方にひるがえすことができるわけではありません。でも、神学者スタンリー・ハワーレスの言うように、「印」として心にしっかりと刻むことはできます。

話がとびますが、僕はフクシマの原発事故が再び起きないように、「全世界の原発が廃棄されるように」と二〇一一年三月

からお酒をやめています。具体的には、基も止めることはできないでいます。でも、この断酒は、自分にとっても、周りの一緒に生活をしている仲間にとっても、「印」としては作用し続けています。

ラルシユというコミュニティも、続いているだけで、印として働いています。個食が増え、自殺願望の若者たちが増え、同級生を殺すために家族に迷惑がかからぬように先に家族全員を殺そうというような考え方ができる世の中になっている辛い現在の世界ですが、共に住み・仲間の存在を祝うコミュニティはあるのです。印を打ち立てながら「希望」は捨てないで生きていきたいものです。

(おた・まさる＝小さい兄弟会・司祭
(四六判・一五二頁・本体一六〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局)



新刊



宗教改革期の芸術世界

上智大学

キリスト教文化研究所 編

●四六判並製 本体 1,500円

本書は、2017年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集(磯山雅氏の論文は逝去のため未収録)とシンポジウムを収録した。

宗教改革期の教会建築

中島 智章

トレント公会議と美術

一奇蹟の聖母像と聖地ロレート

児嶋 由枝

シンポジウム

宗教改革期の芸術世界

司会

竹内 修一

提議者

中島 智章

児嶋 由枝

磯山 雅

ISBN978-4-86376-067-7

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区2-1-36 東山ビル1136 東山ビル1136 東山ビル1136	022-223-2736	共用		faqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千代田区千代田2-2-2	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書局	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722	http://www.seisho.or.jp	seishoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
精光書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tugoboe.jp/~yokohama-cbs/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsta.la.cocacn.jp/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびらけの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-krfsj@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/nasajama_107/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教書店	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	沖縄県那覇市読字777	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

お詫びと訂正 本誌二〇一八年二月号二六頁記載の「近刊情報」九段目「羽野もと子著」は「羽仁もと子著」の誤りでした。お詫びして訂正します。

A5判・360頁・予価50000円

新約聖書の背景に、この宗教世界がある。キリスト教が生まれた

ころ、東地中海の庶民は、どのような宗教的日常を送り、宗教に

何を期待していたのか？ 碩学クラウクが、膨大な史料を基に生

き生きと描く世界的名著、待望の下巻はギリシア・ローマの支配

者祭儀、哲学と宗教、グノーシス主義を取り扱う。

初期待して読みたい。H・J・クラウク著

古代ギリシア・ローマの宗教世界 下巻

小河陽 監訳／河野克也、前川 裕訳

A5判・506頁・本体6800円

旧約解釈史、それは教会の苦闘の軌跡である。現代まで続く果て

ない苦闘の内に、人間の声と神の声は絡み合い、そして旧約聖書

そのものが語り出す。イザヤ書を中心に二千年にわたる旧約解釈

の歴史をたどりつつ、個々の解釈者を、あまり光を当てられてこ

なかった人物も含めて公平に論評する。

教会はイザヤ書をいかに解釈してきたか

七十人訳から現代まで

田中 光、宮崎 薫、矢田洋子訳

A5判・506頁・本体6800円

京デイズニールランドとデイズニールシーの年間入場者数は史上最高

の1551万人を突破した。開園から35年を経てなお衰えぬ人気

の秘密は何か。米国本国のみならず世界の大衆文化に絶大な影響

を与え続けるデイズニールワールドへの神学的アプローチ。

デイズニールランド研究

世俗化された天国への巡礼

宮平 望著

A5判・予価30000円

■日本キリスト教団出版局

シリーズ和解の神学全3巻 《第2回配本》

すべてのものとの和解

E・カトンゴレ、C・ライス著

佐藤容子、平野克己訳

国家間の対立、民族衝突、一部富裕層による経済支配、環境資源

パレスチナに生れたアラブ人司祭が現地から発信する、武力によ

らない、愛と祈りによる紛争解決への道(サビールとは「道」「生

きる水の泉」の意)

四六判・264頁・本体22000円

ナウム・アテイク著

岩城 聰訳

サビールの祈り

パレスチナ解放の神学

A5判・予価30000円

INFORMATION

近刊情報

福音と世界

2019年01月号

特集 生きるためのフェミニズム

寄稿者 菊地夏野、栗田隆子、渡邊きゆり
飯野由里子、要友紀子、セイラン・アマチュ

新連載 福音書記者たちの饗宴(松本あずさ)、
遺跡が語る聖書の世界(長谷川修二) / 好評
連載 福音の地下水脈(石井光太)、聖書と
わたし(北村早樹子)、わたしはロックがわか
らない(山口政隆)、野に咲く民衆の神学(森
宣雄)、現代神学の冒険(昔名貞道) ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

先日、ある方が、おっしゃいました。「土肥さん、救いってなんだろう」。その方の苦しい今を聞いたあとでしたので、私なりに、真剣に応えようとしたのですが、ふと、読んだばかりの小川洋子の小説『ことり』を思い出しました。

もしかしたら、よく知られている小説なのかもしれません。私はその評判を知らないまま、図書館で見かけて、読み始めました。そして、そのすばらしさに驚きました。しかし、私がその小説の何に感動しているのか、実はよくわからなかったのですが、先日の会話のさなかに、「あの本は『救い』について書かれているのでは……。」と気づいたんです。

朝日文庫版の裏表紙に、本書の概要があります。「人間の言葉は話せないけれど、小鳥のさえずりを理解する兄と、兄の言葉は唯一わかる弟。二人は支えあつてひっそりと生きていく」。

例えば、兄弟が幼稚園の鳥小屋の前で、じっと耳を澄ましている場面。そこにこうあります。「兄弟二人以外にこの歌を聞いている者は誰もいない」。兄は、弟を残して、やがて亡くなります。しかし、彼が鳥小屋の前でフェンスにもたれかかって鳥の歌を聞き続けていた、その兄の姿のままに、フェンスの窪みは残っていきまます。

この兄弟の、ひっそりとした孤独。それを天から見ている眼差しによって、この小説は書かれているんですね。

鳥たちの声を兄弟だけは聞き取っていたように、兄弟の生きる姿を見ていく方がある。フェンスの窪みが残り続けたように、この二人をいつまでも記憶してくださる方がある。そのお一人の方を指し示すのが、この小説であり、この方の存在が『救い』そのものだと言おうとしているのではないか。

「そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなんでしょう。」(詩編8編) (土肥)

本のひろば 2019年2月号 予告

本・批評と紹介…アンゲラ・メルケル著『わたしの信仰』、W・ブルッゲマン著『平和とは何か』、吉岡 繁著『教会の政治／キリスト教の礼拝』、廣瀬 薫著『よく生きる手がかり12』他